

# 花豆「常陸大黒」に発生する 土壌病害の総合防除体系

茨城県オリジナル花豆品種「常陸大黒」には、綿腐病や茎根腐病などの土壌病害が発生します。これらの土壌病害に対して、各種防除技術を組み合わせた効果的な総合防除体系を確立しました。

## 「常陸大黒」に発生する土壌病害

「常陸大黒」栽培では、綿腐病、茎根腐病、リゾクトニア根腐病、白絹病の4種類の土壌病害が発生します。これらの病原菌はどこでも存在します。また、多くの作物に寄生し、連作で増加します。病害の発生は高温・多湿条件で助長され、作物が全滅することも珍しくありません。

発生してからでは防除はできないので、予め防除対策をたてることが重要です。



茎の病徴



被害ほ場

写真1 最も被害の著しい綿腐病



やまのいも栽培状況



紙ポット育苗

写真2 輪作作物と紙ポット育苗

## 土壌病害の総合防除体系の導入技術

- 各種病原菌の被害を受けない「やまのいも」や「ヘアリーベッチ」を導入して輪作します。
- 湿害軽減のため畦は10cm以上の高畦とし、地温抑制マルチ（白黒マルチ）を使用します。
- 病原菌の感染を遅延させるため紙ポット（花菜ポット24）で育苗した苗を、紙ポットごと移植します。
- 紙ポット苗の活着促進、根張りを良くするため、亜りん酸肥料（粒状1号：3g/株）を株元に背用します。

## 総合防除体系の実証

「常陸大黒」に発生する土壌病害に対して、輪作、高畦栽培、地温抑制マルチ利用、紙ポット苗移植、亜りん酸肥料の施用を組み合わせた総合防除体系は、慣行栽培のほとんどの株が枯れてしまうような甚発生条件下でも被害を50～100%軽減することができます。

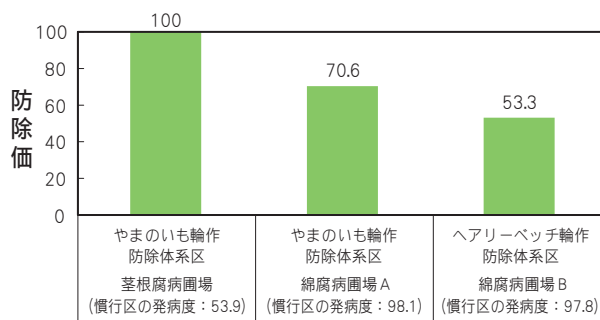


図 茎根腐病および綿腐病に対する総合防除体系の効果（平成22年、常陸太田市、常陸大宮市）